

## **4. 提言：**

---

「関西クリエイティブ・メガリージョン」を目指して

## 「関西クリエイティブ・メガリージョン」構想

1、2、3章で得られた新機軸を用いて  
「関西クリエイティブ・メガリージョン」の構想を試みた

### 第1章 研究の背景

世界的メガリージョン競争とクリエイティブ産業  
移行に対応するには関西をメガリージョンとして  
捉え直す必要がある



**新機軸1：**  
対象圏域をメガリージョンで捉え直す

### 第2章 関西のメガリージョンの考察

関西のメガリージョンにはその潜在的なクリエイティビティおよび多核性という特徴を生かしつつ、情報発信力を高める戦略立案がふさわしい



**新機軸2：**  
潜在するクリエイティビティに着目する

### 第3章 海外事例視察で得られた都市力強化戦略

都市力強化のためには、国際的水準を見据えた  
ビジョン・戦略・体制の3つが明確であること



**新機軸3：**  
視点を国際的水準に引き上げる

次頁以降でビジョン、戦略、体制の提言を試みた



「関西クリエイティブ・メガリージョン」のビジョン及び戦略について立案を試みる

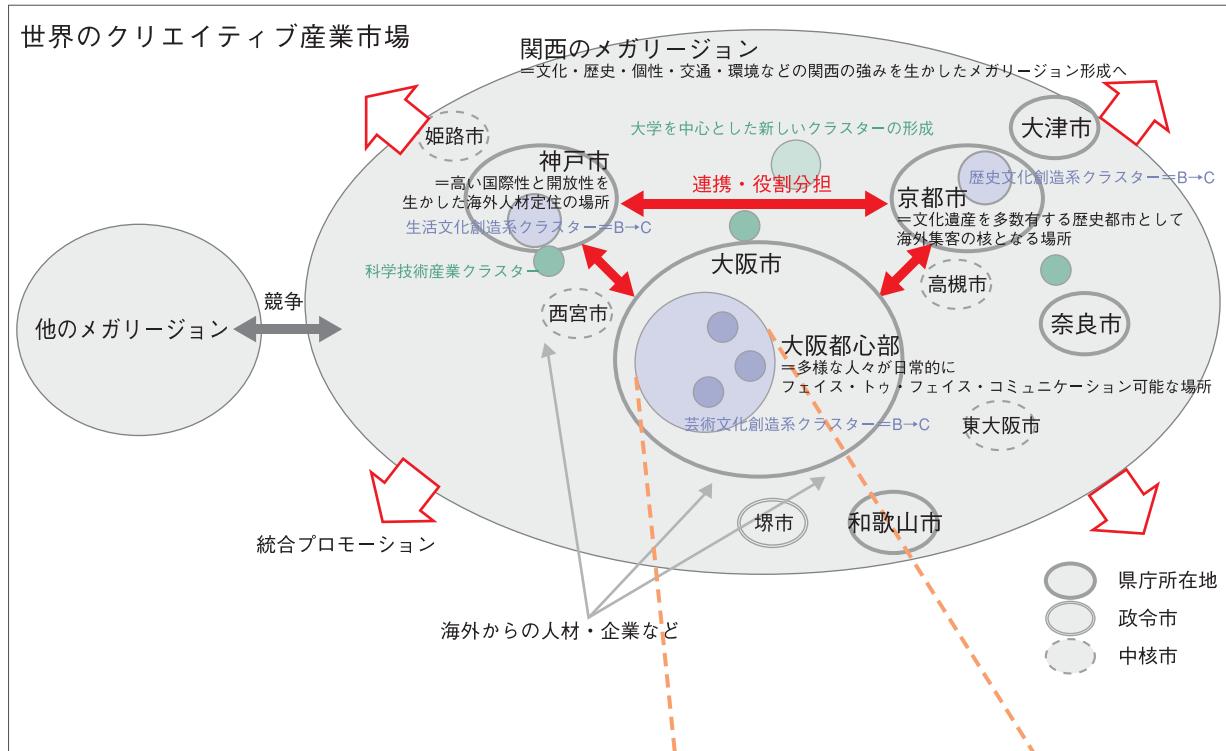
	関西のメガリージョン	大阪都心部
ビジョン	<b>関西の個性と資産を生かし、アジアを先導するクリエイティブ・メガリージョンを目指す</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関西の個性ある都市群と各々で育まれた豊穏な資産とを戦略的に生かすことにより、世界のクリエイティブクラスから憧憬され、アジアの知識創造分野を先導することができるクリエイティブ・メガリージョンを目指す。</li> </ul>	<b>創造性、開放性にあふれる都市環境や活動を強化し、国際的に認知される都心を目指す</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創造性を高める都市再生や国際的なイベントなどの情報発信を通じて、大阪都心部が世界のクリエイティブクラスから、ビジネス・観光・留学等のアジアにおける主要な目的地として認知されることを目指す。</li> </ul>
戦略一覧		
①創造性を顕在化させ、クリエイティブクラスを呼び込む  ～潜在する創造性を都心と郊外で顕在化させる～	<b>都心部の芸術文化創造と郊外の科学技術創造の両輪でクリエイティブ・クラスターを整備する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学技術創造分野では郊外での既存産業クラスター(京阪奈学研都市、神戸医療産業都市、彩都など)の強化、芸術文化創造分野では大阪・京都・神戸都心部での創造クラスターの強化など、役割を分担しつつ実施する。</li> <li>・郊外においては既存の大学を中心とする知識創造ゾーンの形成を図るとともに、都心においても競争力ある国際大学の誘致を実行し、新たな知識創造ゾーンの形成を図る。</li> <li>・関西の強みである住環境の質の高さや、都心と郊外の近接性、成熟社会としての安全・安心、多様な歴史や文化をブランドとして生かし高めることで、世界からクリエイティブクラスを呼び込む。</li> </ul>	<b>クリエイティブクラスの活動拠点にふさわしい創造的な都市インフラを整備する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都心部において郊外で展開する科学技術産業クラスター やリサーチパークと連携した関西R&amp;D情報発信拠点、国際的注目を集める大学(関西州立大学設立など)、国際的美術館などの創造文化機能を導入する。</li> <li>・都心部の核の周辺に位置する住環境混在エリア(福島、阿波座、堀江、南森町、上町台地など)においても多様性に富んだ創造的環境の形成を促す。</li> <li>・都市内空地(都市公園、公開空地、水辺など)の利用を規制緩和し、集客施設を整備したり、営業活動・地域活動を容易にすることで、芸術文化創造クラスターのコア・プレイスとする。</li> </ul>
②多核性を生かしつつ、物流・人流インフラを連携する  ～メガリージョン内の都市間ネットワークを強化する～	<b>大阪、京都、神戸および周辺の中核都市が多様な役割分担とネットワークを形成する多核型メガリージョンを目指す</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪、神戸、京都の中心都市は各々の際立った個性を磨きつつ三都市間の機能連携を強化することでアジアの中で競争力あるメガリージョンを形成させる。</li> <li>・中心都市の周辺の政令市や中核市なども各々の個性を磨きつつ、多様な分野で相互連携を図る。</li> <li>・関西メガリージョン全体の物流・人流インフラを外部からの利用者の視点で再編強化する。(関西の国際空港、港湾の一体的運営や、多様な外国人を想定したアクセス性・バリアフリー性の改善など)</li> </ul>	<b>メガリージョンの中心都市にふさわしい国際水準の機能集積による都市格の向上と多様な交通ネットワーク整備によるアクセシビリティの向上</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都心部において、大阪の特性を生かし、国際的集客施設の誘致と集積、水都やメインストリートの風格を上げる複合機能の集積、国際性と歴史・水辺の調和のとれた都市景観を創出する。</li> <li>・新たな広域交通ネットワーク(京阪中之島線、阪神なんば線など)が整備された沿線に、都市再開発やイベントなどの都心部の再生プロジェクトを集中的かつ重点的に組み合わせる。</li> <li>・交通結節点での乗り換えやすさの向上や都心部での水運、自転車、観光バスなどモビリティの選択制を高め、都心全体のアクセシビリティの向上を図る。</li> </ul>
③情報発信力を高め、集客力を強化する  ～世界に認知されるレベルの情報を発信する～	<b>統合的マーケティング、プロモーションの実施により国際的観光集客力を高める</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特にクリエイティブクラスを意識した国際的観光集客力を高める。</li> <li>・スター科学者から留学生に至るまで、世界から多様なクリエイティブ人材を呼び込むため、統合的な人材マーケティング・PRを実施する。(留学生の関西企業への就職インターンシップ実施など)</li> <li>・国際会議・見本市・イベント・観光を複合集客ビジネスとして捉え統合プロモーションを実施する。(大阪での会議、見本市の後に京都・神戸でイベント、観光など)</li> </ul>	<b>国際的に認知される高いレベルでの情報を発信し都心の集客力を高める</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪の旧来の都市資産に新たな機能や価値を付加し国際的なレベルに値する観光地としてPRする。(大阪城公園、天王寺公園に新文化機能追加、谷町筋観光軸として統合PRなど)</li> <li>・国際的に認知されるイベントを開催すると共に連動した都市開発を実施する。</li> <li>・都心部で国際的注目を集める建築物の整備や国際デザインコンペ、国際イベントの開催(アジア文化首都開催など)の実施。</li> </ul>

## 4章

提言：「関西クリエイティブ・メガリージョン」を目指して

### 4-2 提言：「関西クリエイティブ・メガリージョン」構想

(参考) 関西クリエイティブ・メガリージョンの戦略イメージ



ビジョン実現のための体制は3章のイギリスの視察で得られた知見を参考に、関西のメガリージョンと大阪の両方での展開を提言する。

### 関西のメガリージョン

## 現行の府県域を超えた効果的な地域戦略の立案と実行を図るため、広域での地域経営力を向上させるしくみが必要

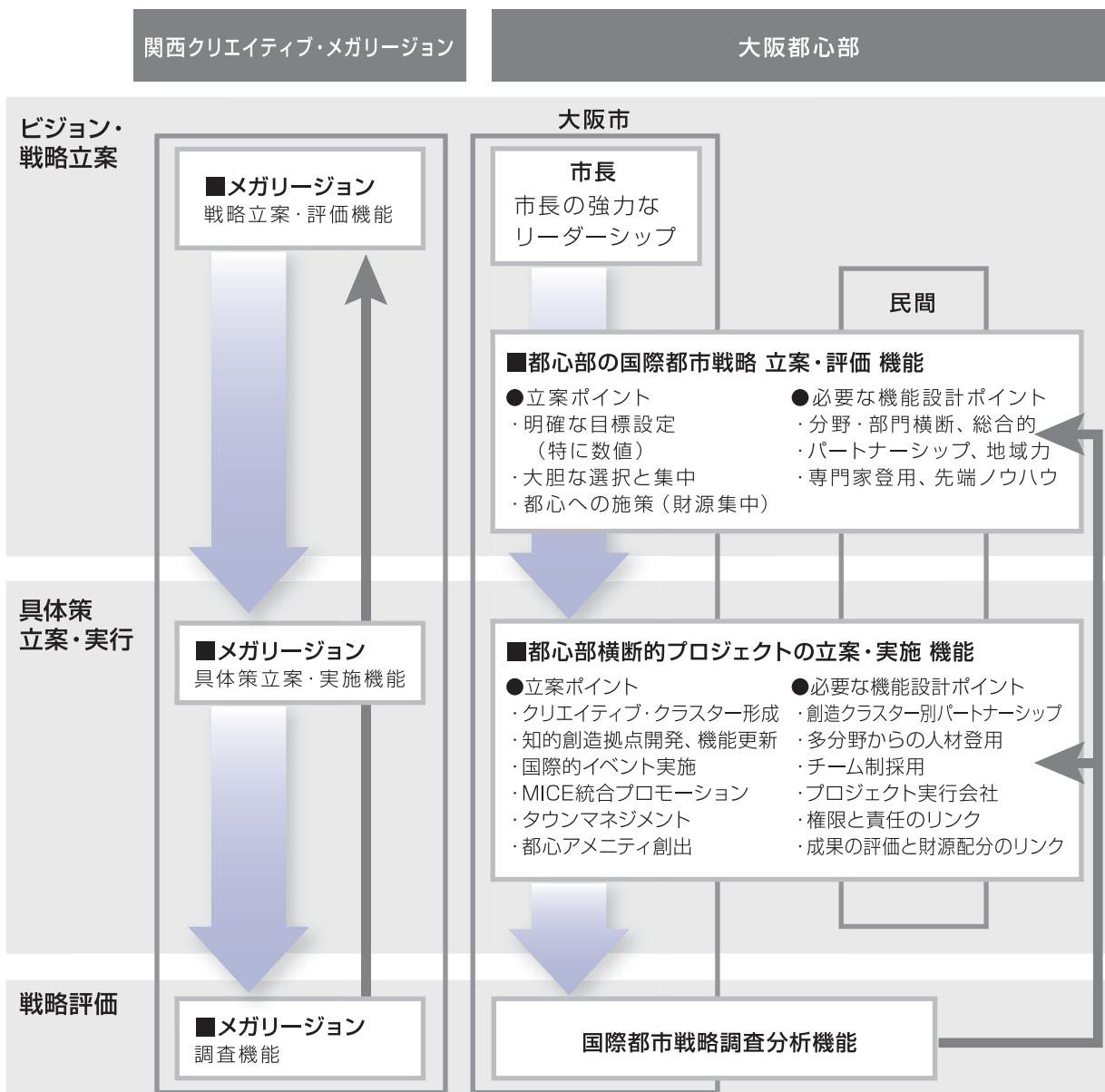
- 関西のメガリージョンが世界的な地域間競争のなかで、魅力と競争力を備えた地域として発展するためには、現行の府県域を超える広域での地域経営力を向上させ、効果的な地域戦略の立案と実行を図ることが必要である。
- 将来的には広域自治組織としての関西州を設立し、例えば、産業振興、企業誘致、雇用開発、基盤整備などの政策や関西全体の対外広域プロモーションに関して、グローバルな視野に立った調査分析のもと、関西の独自性を発揮することが望まれる。
- そのために本年中にも設置予定の関西広域連合(仮称)において、政令市や中核市はじめ都市間連携の望ましいあり方を検討し、メガリージョンのビジョン策定や具体的アクションに果敢に取り組むべきである。
- また、関西のメガリージョンの経済発展の基盤となるインフラ整備について陸海空にわたる交通・物流基盤の一体的運営組織「21世紀関西版ポートオーソリティ構想」の実現に向けて検討を進める。さらに、関西にあるクラスター や研究機関のネットワーク形成を図り、関西のメガリージョンの中長期的な産業振興の基盤づくりを促進する。
- 関経連はこれらの実現に向け、関係先に働きかけて、その調整・推進の役割を果たしていく。

### 大阪都心部

## 市長が明確なビジョンを示し、現状分析・戦略立案・実行を出来るしくみが必要

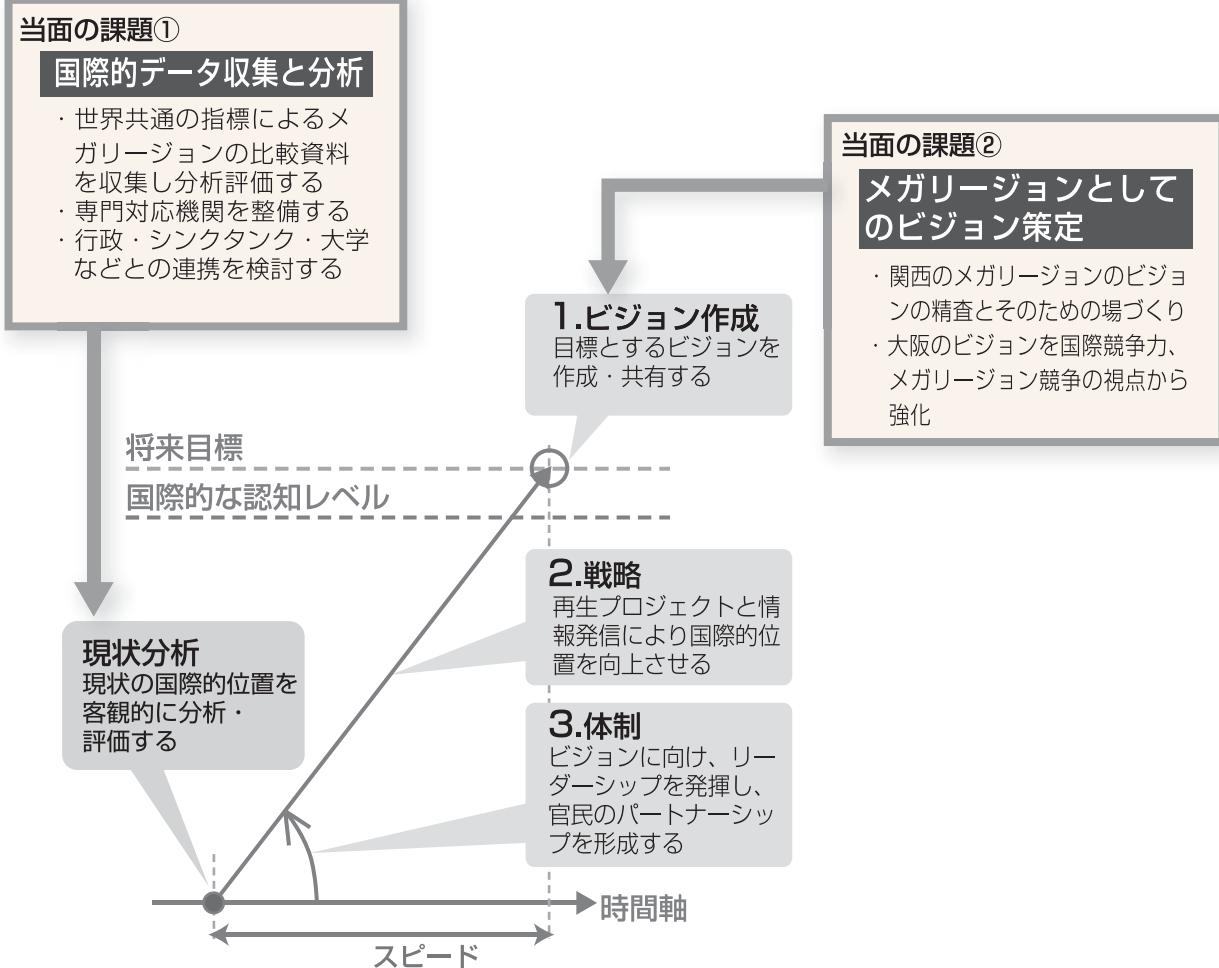
- 関西クリエイティブ・メガリージョンが国際的な競争に勝ち抜いて行くには大阪がその中心都市としての役割を十分に果たし、創造性・開放性を強化していく必要がある。
- そのためには、市長が明確なビジョンを示し、現状分析・戦略立案・実行を出来るしくみが必要である。
- 関経連はこれらの実現に向け、他の経済団体共々、市長に働きかけるとともに、大阪府にも一層の府・市連携を働きかける役割を果たしていく。

## ビジョン策定・戦略立案実行のために必要な体制イメージ



## 4-4 具体化に向けた当面の課題

ビジョン実現に向け、今後、下記の項目を掘り下げていく必要がある。  
関経連として関係先に働きかけて実現を目指すものである。



## おわりに

関西経済連合会・都市再生委員会の下に設けられた「関西の国際都市力強化研究会」では、今後の関西の目指すべき方向性やその実現方策について1年余にわたる調査研究活動を行って参りました。このたびその報告書がまとめられたことに対して、当研究会のアドバイザーとして充実感を感じるとともに、この活動に関わることができたことを誠に光栄に思います。

昨今見られるグローバル化の進展を直視すれば、大都市圏の将来は世界のメガリージョン間の競争に晒されること、そして、そこでの比較優位を発揮するためには創造的な人材や産業などの育成戦略をもたねばならないこと、これらが研究会メンバーの基本的な共通認識でありました。言い換えれば、世界的な視点をもった都市経営戦略の構築です。

12回に及ぶ研究会を振り返ると、まず都市経営に関する海外や国内の最先端の文献が読破・分析され、続いてそれらに関連するオピニオンリーダー諸氏へのヒアリングが行われています。この結果、想定外かつ新鮮なキーワードが回を重ねるごとに積みあげられてきました。さらに並行して、これまた最先端の都市再生事例が見られるイギリスやアラブ首長国連邦の現地踏査が行われ、その新鮮な情報をもとに、メンバー相互が地に足のついた議論を開催してきました。こうしたプロセスから本報告書の題名である「関西クリエイティブ・メガリージョン」構想が、そしてその実現に不可欠な「ビジョン」と「戦略」と「体制」がそれぞれ浮かび上がってきました。

将来を見据える次世代都市論はこれまでにも多数散見されます。その中で、関西リージョンを研究対象に据え、しかもリージョン全体とその中心都市・大阪についての都市経営戦略をとりまとめたものは限られると思います。そして、本報告書にみられるように国際的な視点と地域的な視点の双方から都市経営戦略を提案した内容はさらに限られます。それだけに研究会メンバーの創造的な思考と調査活動に対して特に敬意を表したいと思います。

新鮮で先端的な本報告書の内容が多くの方々の目に触れ、関西における今後の国際都市力の向上に寄与することを切に祈念致します。

研究会アドバイザー  
関西学院大学教授・総合政策学部長 加藤晃規